



共同通信



2010年3月17日 163(373号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 63

『両膝の手術をしました』

順子先生から「娘と一緒にお母さんも入園されたみたいですね」といわれている木村です。この一年、ぼっぼの娘と共に共同生活を存分に楽しませて頂きました。

更に今回は文章を書く機会を頂きましてありがとうございます。

もう少し何事もなかったように戻ってくるつもりでしたが、たくさんの人に気付いてもらい、心配して頂きましたのでこの際告白しますと、この前の冬休みに両膝の前十字靭帯再建手術をしました。独身の時にソフトボールで両膝の靭帯を断裂したのですが、当時は「日常生活には問題ない。筋肉をつければ多少のスポーツも可能。」と言われ、注射一本でも苦手なのに手術なんて怖すぎる

~と思って、手術をしませんでした。それから10年近く、正座も普通にできるし、ある程度の運動もできるのでたいした不便も感じず過ごしてきました。それが、昨年11月の「親子でわらべうた」でみんなの前でおおなわを跳んだ時、張り切りすぎて高く跳んでしまい、着地の際に一瞬両膝の骨がズレた感覚がありました。その時は痛いものの、情けなさや恥ずかしさとその場の楽しい雰囲気や壊したくない思いとで、何事もなかったように続きを跳びましたが、きつと顔面蒼白だったことでしょう。特にひどかった左膝はその後3日間腫れて曲がりませんでした。

後日、友達に「おおなわとびは日常生活レベルではないよ」と笑われて 1

しまいました。私の中では、“たかが”おおなわを数回跳んだ程度でこんなことになるのでは、この先娘と一緒に共同生活を楽しめない！と思い、思い切って両膝の手術をすることにしました。

医者からは「両膝同時に手術するとリハビリが大変ですよ。片方やって1年ほど置いてからもう片方するのはどうですか？片膝だと入院2週間だけど、両膝だと入院3週間はかかりますよ。」と言われました。『片方ずつやったら共同幼稚園が終わってしまって意味がない！やるなら両膝同時に。リハビリが大変なのは頑張っておくとして、でも、入院3週間だなんて娘をどうしよう？』と悩みました。母に「まだ友紀が一人で泊まりに来たことがないし、年末は特に仕事が忙しいから無理よ～。それに幼稚園が始まって連れていけないし。」といわれ、やっぱりやっぱり無理かなあと思いついた時、医者から「年末は手術の予約で一杯だから12/18なら空いてるよ。」と言われ、『12/18は2学期最終日、そして3週間後といえば1/8で3学期最初の登園日。冬休みドンピシャでほとんど幼稚園を休ませずに済む』と何だか神様に「今がチャンスだよ～！」と言われているような気がしました。それでも迷っていると、「こんな時くらいお母さんに甘えたらいいのよ」と言ってくれる友達に背中を押されてもう一度母に頼んでみました。する

と、前とは打って変わって「会社に友紀を連れて行く許可をもらったわよ。この際、手術する？」と意外とあっさり引き受けてくれました。

入院直前の「ゆっくり聖書を読んでもみませんか」の会では園長先生が特別よく効く！？お祈りをしてくださり、順子先生からは「入院中思ったほど本は読めないわよ～」という順子先生流の激励をもらいました。手術当日は私が娘を送り、夫が迎えに行くことになっていました。それまで何度か私が入院することを娘に伝えようとしたが、泣き出しそうになるのでなかなかちゃんと説明することができず、当日、幼稚園の門の前で伝えました。いつも以上に大泣きする娘を、事情をご存知の水田先生に“預け逃げ”する形で病院に向かいました。あの時は本当にご迷惑をおかけしました。

入院中、独身の時は手術が怖くてしなかったのにどうして今回はできたんだろう？と考えました。丁度夫が病院に持ってきてくれた2学期末の順子先生のおたより(2009-72)に、武庫川の実習生が弾いたハンドベルを聞いてすぐに担任の先生方7人で「きよしこのよる」を奏でた話について「いいと思ったことは即やってみる」と記載されていました。それを読んで、「これか！」と思いました。順子先生の「いいと思ったことは即やってみる」という精神が先生方に浸透しており、更にお母さん方まで

もが楽しいことを、それも妥協せず
どんどん実行するという共同幼稚園
の“場”がいつの間にか私を積極的に
変化させていたんだなぁと思いました。
親子でわらべうたで「やってみた
いお母さんいらっしゃいますか？」
ですぐに前に出て挑戦するノリのい
い友達にも恵まれ、膝のせいで幼稚
園生活を思いっきり楽しめないなん
てもったいない！！と思うように
なっていたんだなぁと気付きました。

その積極的に楽しむ姿勢は入院中
も発揮しました。手術直後のベッド
に張り付け状態（両膝だと寝返りを
打てないからかなり辛い）から一日
一日できることが増えていく、そん
な人間の回復力の凄さを感じました。
また、いつの間にか病院食がすごく
美味しく感じるようになり、家の料
理を見直すきっかけになりました。
（残念ながら続いたのはしばらくでし
たが。）また、同室だった3人（高校1
年生、大学1年生、おばあちゃん）と
すっかり仲良くなって、高校1年生の
数学の冬休みの宿題を大学1年生と
一緒に手伝いました。（連立二次不等
式と確率でした。わ～懐かしい。）看
護婦さんの姿に「人に寄り添う」とい
うことを考えさせられたり、患者本
人も分からない痛みに答えられるリ
ハビリの先生に感心したりもしまし
た。もちろん読書もたっぷりでき、そ
れでもまだ時間があつたので詳しい
入院日誌まで書き、こんなに入院生
活をエンジョイした人はいないので

は？というぐらい楽しみました。後
にリハビリ室で会った人が「辛かつ
た時、看護婦さんに両膝同時に手術
した人もいるのよ～、と励まされた」
とあって、私が余りに楽しそ
うにリハビリをしているのにびっく
りしていました。

結局、娘は平日は母が、休日は夫が
みることになり、時々、娘の「お母さ
んは？」という言葉に「サンタさんは
何を持ってきてくれるのかな？」と
気を逸らせたり、いろんなネタを小
出したりして毎日を過ごし、思った
程は泣かなかつたようです。娘なり
に覚悟を決めたのでしょうか。回復が
順調だったこともあり、予定より4日
早い1/4に退院できました。16日ぶり
に会った娘は言葉数が増え、少しお
姉ちゃんになっていました。

退院して、たくさんのお母さん方
にお声をかけてもらいました。また、
まだ十分に曲がらない膝なのに「親
子でわらべうた」に出たいという身
勝手な希望も叶えて頂きました。こ
の手術を通して、いろんな人に支え
られていることに気付くことができ
ました。本当に感謝しております。お
陰様で現在もリハビリは順調で、今
年の運動会にも十分間に合いそうで
す。膝の憂いも無くなる事ですし、公
同生活を娘と一緒にめいっぱい楽し
みたいと思います。

（木村 路子）

たとえば山野の苔にしても、栂類にしても、それ一茎でも立っているわけでは
ない。

大地が生み、太陽と雨が、あるいは雪や風が育て、まわりの種々さまざま
な植生の中であって、自分の形と色をそなえた藪がある日まころぶ。

名もしれぬ山裾などを通りかかれば、風にそよぐ野の花の群落の中から見あげると、
山ざわに並ぶ樹々の梢がゆれていて、全山いっせいに波立っている。

(「一本の老樹」(石牟礼道子))

「・・・自分の命を愛する者はそれを失う・・・」の、“自分を愛する”が、その結果として“それ(命)を失う”とヨハネによる福音書のイエスが言う時、命の理解、それで(愛すること)引き受けている命が少なからず薄っぺらい、と言いたいのかも知れません(12章25節)。命が直面する越えられそうな困難はともかく、たちはだかるものが大き過ぎる時、愛しているはずの自分の命は、時には負い難いほどの重荷になってしまいかねません。“自分の愛している命”であるにも関わらず、ということで、ヨハネによる福音書のイエスが“・・・自分の命を愛する・・・”で見抜いているのは、命の見積もりの薄っぺらさと、薄っぺらさの故に投げ出しかねない、もう一つの薄っぺらさのように思えます。

だからと言って「この世で自分の憎む」(同12章25節)は、薄っぺら
く読んでしまえば“自虐的”である以

外のなにもものでもありません。しかし、「子(イエス)が、地上の存在を完全な深さでその身に引き受ける」ということであるとすれば(「ヨハネによる福音書」、ブルトマン)28節後半で示されている命の洞察は薄っぺらいとは言えません。

人が背負うことになった命は“自分の命を愛する”と軽くすんなり言えてしまえる場合もあります。ありますが、時として途方もなく重かったりするのが命です。中でも、病む時の人の命の重さは、並大抵でなかったりします。難しいのは、重いと思いつ込んでしまった時の命の重さに、往々にして人はへこたれてしまいかねないことです。“自分の命を愛する”では、間に合わなくなるのです。“自分の命を憎む”は単なる自虐ではなく、むしろ命というものが抱え込む事実の重さを垣間見る者の言葉のように思えます。“病む時”ばかりでなく、ヨハネによる福音書が書かれ

た時代、人の命はずいぶん軽かったかも知れません。人々が、自ら選んだ結果ではなく、大きな力に弄ばれた結果の軽さと言う意味で。そんな時代の、そんな状況の中で、「自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に到る」は、たとえば大いに“政治的”な言葉に聞こえなくはありません。「・・・今はこの世がさばかれる時である。今こそこの世の君は追い出される」と言われているようにです（12章31節）。もちろん、そうではないかもしれない訳で、その場合でも命というものが抱え込む事実の一端は十分に指し示しています。“この世で自分の命を憎む”は自虐ではなく、命は重いということなのです。病む時はもちろん、幼い子どもたちだった、その無防備さを考慮され

る前に、“振り回し”翻弄するという具合に。無防備な高齢者が、逃げようのない施設に集められて、言わば焼き殺されるという具合に。ヨハネによる福音書は、冷静ということではなく、そんな意味での命の事実を直視して“自分の命を憎む”と読めるように読めます。そうしてある命を、そのあるがままに直視する、即ち“命を憎む”ことにおいて、命が救済されようとするのが、ヨハネによる福音書のイエスの命の理解です。

（菅澤 邦明）

～今月のいのり～

年度の終わりの時期を迎えましたが、子どもたちは人が決めた区切りには拠らず、日々進化し続けています。

毎日が大切だということ。それを自然の中から伝えて下さる神さまに感謝します。

この一年の歩みを見守ってくださり、ありがとうございます。

なだらかではありませんでしたが、一步一步自分の足で歩いた道は、私たちの誇りです。

どうか、これからもあなたに強められ、守られて進んでいくことができますように。

もうすぐイースターを迎えます。あなたが死に打ち勝ち、復活された日です。

夜が永遠ではないこと、死を恐れなくてもよいこと、そして神様の愛がすべての生き物に注がれていることを、あなたをご自身の命をもって教えて下さいました。

どうか、不安や悩み、痛みを取り去って安らかな心でその時を待ち望むことができますように、お導き下さい。

(大平 有紀)

“ 年長さん、卒園おめでとう ”

つい先日まで幼稚園の梅のつぼみの膨らみに春の訪れを感じていたのが、もう梅の花は落ち始め、次は桜のつぼみの膨らみに子どもたちと心を弾ませている毎日。出かた先でオオイヌノフグリ、ホトケノザ、ペンペン草にまで出会い、もうすっかり春～！ではありませんか！さて…ピンク、黄色、白、緑～3月になると気になりだすのが、そう次の帽子の色。「ほんとうにさんぼ・らったになれる？年長になれる？」なんて声も

聞こえてきたりしますが(笑)、子どもたちは過ごしてきた日々の中で1年の人は1年、2年の人は2年とそれぞれにその年数の分だけ共同色に染まっています。4月からのアルバムを見返したり、子どもたちとの会話や散歩の道々などからいっぱいにそのことを感じています。そして今までみんなの憧れ！だった年長さんたちは白と緑の帽子を次の人たちへ渡し、新しい一歩を踏み出そうとしています。ここで過ごした3年とい

う日々の中で、あの時オレンジ帽子を被ってやってきたみんなとは見違えるくらい大きく、そしてたくましくなった年長さん。だけどあの時のままの変わらない笑顔や無邪気な性格。みんなの持っているいいところは今のままで、これから新しい場所でたくさん進化していくことを願っています。もしも辛い時や悲しい時があったらたまには立ち止まって振り返って、ここで過ごした時間の中で歌ったたくさんの歌やみんなで見た山からの景色、花や土や草のにお

い、とれたての野菜を味わったこと……みんなとの豊かな日々を思い出して、そしてそれを心の支えにまた前を向いて進んでいってくれることを願っています。年長さん、卒園おめでとう。

(藤原 紘子)

グアテマラ便り (最終回)

2010年を迎えましたね。既に、お目にかかった方もいらっしゃると思いますが、現在、日本で生活しています。これから、縁あって宝塚市の子どもたちに関わるお仕事に就かせていただくことになりました。昨年末までグアテマラの生活の様子など、思うままにお知らせさせていただきました。何となく気になったこと、目に付いたことなどばかりだったのですが……

今回、グアテマラからではないけれどグアテマラについて、一旦(!)最後にお伝えします。今回の帰国は、到着が大晦日の夜でした。とはいえ、グアテマラを出たのは29日の夜、アメリカで1泊後、さらに日付変更線を

越えるために1日消えてしまったようなことになるのです。12月29日、私はうろうろと町を歩き、途中でガイドの学校時代の友達にばったり出会ったり、仲良しのおばさんとお茶して、プレゼントをいただいたり……約2年、たった2年ですが、一緒にオフィスで働いた姉妹やそこにいる犬、猫たち、友人やおうちの管理人さんたちとの別れを惜しみました。大好きな町を歩きながら、おんおん泣いていました。

みんなが「すぐに帰ってきてね」「私達は姉妹だよ」「この町は、かよこの家なんだから」と言ってくれて、どんなに嬉しかったかしれません。こんな風に、言葉もちゃんとしない私 7

を、受け入れてもらえたことが、本当に幸せだと思います。

さて、日本に戻ってきた私が、グアテマラに向けてできることはなんなのでしょう？それが、私への宿題です。ガイドの先輩である、白石光代さんはソロラという町の小学校で就学支援をしています。そして、引き続き女の子たちが集まって、彼女たちの民族衣装を使ったカードを作ったり、天然染料の工房を支援して、日本へ販売できるような場を作っています。まずは、その窓口のひとつになることなのかな？「グアテマラの子どもたちに何ができるの？」日本を出たときの？はまだ残っています。私のつぶやきが、誰

もが知っているわけではない、小さな国をほんの少し、近くに感じていただくきっかけになればいい、嬉しいです。

不定期で申し訳なかったですが・・・

今まで、読んでくださって本当にありがとうございます。

どうぞ、何か聞いてみたい！ということがあれば、お声をかけてくださいね。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

(横山 佳代子)

すずや便り

こんにちは。三寒四温ならぬ一寒一温？に体がついていかない日々ですが、梅や椿が咲いているのを見ると春が近づいているのを感じます。先日、浅草に行った帰りにかっぱ橋に寄りました。ここは調理器具、食器や厨房機器、その他食に関する卸の商店街です。昨年初めて梅干作りをした時に梅を干すざるがなく金網を使ったところ、三日三晩干した梅はふっくらと仕上がったものの金網は錆だらけ・・・。考えてみれば当たり前で、今年は竹ざるの準備が必須、という訳でのかっぱ橋です。平らで直

径が大きいものを探していると早速発見！かっぱ橋まで来た甲斐があったわ、と値札を見ると「！！！」高い・・・ここに来たのは値段にも期待してのことだったのに。どうしよう、道具は良いものを買えというけど梅干以外に使う用途を考えてなかったし、とりあえず店はたくさんあるからどこかにお買い得があるかも、と先に進むことにします。業務用の調理器具もあるのでいろいろ覗くのも楽しいのですが、長男は「これ買って～」とタイ焼き器を指差すので、さすがに相手をするのもあほらしくなって

きます。娘に「お母さん、楊枝がなかったから買っていこう」と呼ばれて、まずはひとつ買おうと店に入ります。しばらくすると店の入り口で「つるりん、つるりん」と声がします。入り口で流れていたビデオに心惹かれた様子。「つるりん(洗って繰り返し使えるオープンシート)」とあります。

以前からオープンシートを使い捨てるのが気になっていたのもちょっといいかも、と購入。定価の半額程度の価格も Good です。フライパンに乗せて使っても大丈夫とあったので、試しにシシャモを焼いてみたところ焦げ目はつくのにくっつかず、グリルを使うより簡単！これはすごい、とチャーハンや焼きうどんなど、私のくっつき苦手メニューを試してみてもばっちり成功です。今回は長男

のお手柄で、何枚か買ってよかったくらいです。素材はガラス繊維で調理中の油がしみこむため「つるつる度」が増すのだとか。どれだけつるになるのか楽しみです！ネットでも見つけたので興味のある方は検索してみてください。(通販業者ではないですが(^_^))

さて当初の目的の竹ざるはどの店でも結構なお値段でした。でもあきらめモードで入った最後の店で900円のざるを発見！他店のものより若干網目が粗いのですが即購入しました。帰宅して測ったら直径は5φm。今年は安心して梅干が作れそうです。

(富家 香麻里)

みかん便り

お久しぶりです。愛媛はここところ、ようやく暖かくなってきました。でも、雨も多いので、やっぱり肌寒い日が続いています。

最近いろいろと幕末の本を読みあさっています。新撰組の資料を見てとりあえず思ったのは、「新撰組1番隊組長沖田総司」って、何で隊の長が『隊長』やなくて『組長』なんやろ？ってとこでした。しょーもないことやけど、考え出したら気持ち悪いもの

ですね。

幕末は戦国時代よりもいろんな思想が渦巻いていて面白いです。佐幕、開国、尊王、攘夷、徳川幕府と維新志士のどっちが正しいかもわからない争いがむなしく、明治維新の後も権力に惑わされ、次第に富国強兵政策で国民を兵隊として扱い始め、どんどんおかしくなっていく始まりの時代なんだとはじめて知りました。歴史が大嫌いな僕でも結構ハマります 9

ね、幕末は。薩長でいろいろ見てたら、長州藩のほうを時代をしっかりと先読みしていたんだなあって感じました。桂小五郎の考える平和と、西郷隆盛の指針のズレは虚しいものです。高杉晋作の辞世の句、「面白きこともなき世を面白く」。理由も無く心にグッと来ました。大久保、西郷、木戸、桂の歴史を大学生になってはじめて知った初春でした(笑)

はい、こんなことを考え始めたのも、クリント・イーストウッド監督の「インビクタス 負けざる者たち」という映画を見たからです。南アフリカのマンデラ大統領の物語で、国の恥といわれたラグビーチームを国の誇りになるまで再生させた実話です。ただのスポ根ではなく、アパルトヘイトの実情や、黒人と白人の融合国を作る政策、白人に対する「赦し」を貫く信念など、マンデラ氏一つ一つの言葉や思想が深く、リーダーシップとはこういうものなんだと感じました。マンデラ氏が言った言葉に「1つの誇りが国を変える。その誇りがこれ(ラグビーチーム)なんだ」というものがある。それに対して、映画を見終わった後の感想は、「日本でもつたいないなあ」でした。日本は文化にしる、技術にしる、スポーツにしる、誇れるものはたくさんあるし、それを恥と思うことは無いけど、それを生きていく支えにすることも無い。

10 でも、南アフリカの人には1つの誇りを

支えに大きな力と活気を見せていた。国民性っていえばそれでおしまいやけど、「おい、鳩山さん。マンデラさん見習って何とかしてくれよー」って人のせいにしてる自分もなんか小さいなあって思いました。

それで、明治からの事を調べようと思ったんですが、徳川幕府を倒して、象徴的なリーダーを頂点にするのではなく、国民それぞれを主体にしていくことに徐々に決めていった明治政府の考えが戦後の今の社会にも少なからず根元にあるんやなあって思います。その後の今の僕らが、マンデラ氏にしるオバマ氏にしる、大きなリーダーの出現に対して羨ましく思っているっていうのは面白いですね。

社会に対して何の興味も無かったんですが、これから先、少しずつ目を向けていこうと思います。大学3年生になるんで、当たり前っちゃ当たり前ですね。頑張ります！！

あっ、「インビクタス 負けざる者たち」オススメですよー。よかったら見てください
それではまた来月

(河村 高志)

大切な贈り物・津門川 9 0

“イヌノフグリ？”

前回の“大切な贈り物・津門川”でお伝えした“イヌノフグリ”について、ノートルダム女子大の菅井啓之先生に直接見ていただいて、ご意見を頂きました。

お尋ねの「イヌノフグリ」を調べてみました。結論からすると、見分けが付かない状態です。「イヌノフグリ」と帰化植物の「フラサバソウ」との中間的な形態を持っているということです。

<イヌノフグリ>

- ・葉ほとんど互生
- ・表は無毛
- ・花びらは全部3本
- ・花の色は淡紅色、
ときに白色に近い
- ・双葉の形縁に
ギザギザがある

<フラサバソウ>

- ・茎下部の数対は対生
- ・表、まばらに立った毛
- ・一番広い花びらの筋は5本ある
- ・花の色淡青紫色
- ・双葉の形卵形

以上は図鑑の記載からの要約ですが、さて、昨日持ち帰った植物は

葉はすべて、対生

葉の表面は無毛

花びらの一番広いものには5本の筋

花の色 淡紅色

双葉が付いていました。葉は長卵形で縁にはギザギザがなくつるりとしています。

以上のことを総合しますと、葉の表面と花の色の形態からは「イヌノフグリ」となるのですが、葉が全て対生、花びらの筋5本、双葉の形からは「フラサバソウ」ということになり、決着がつかない中間的な形態ということになります。おそらく、共同幼稚園周辺では、フラサバソウがよく見られること、採集した個体は成長が悪く十分に大きくならない状態で花を付けていること、葉の形態は変異がよくあるのですが、花びらの筋の数や双葉の形態はまず変異することがないので、結論としては「フラサバソウ」の未熟というか、十分に成長しきらないで花を付けたものかも知れないということです。でもこれから春に向けて少し注意してあの近辺を観察し続けてもらえば、きっと、決定的にはっきりした個体に出会えて、自信を持って「イヌノフグリ」だと言えるものに出会えるかも知れませんね。長々と書きましたが、どうも分かりにくいということです。植物の同定は一断面だけでは決めにくいことも多く、少しの継続観察の結果として決めることが正確ではありませんね。

以上、結論が出しにくく申し訳ありませんが、私が調べた結果を報告します。

これからも、足元の野草にも目を向け続けて自然との出会いを大いに楽しんでください。有り難うございました。

2010年3月 あんなこと こんなこと...

教会学校から

《2月の活動報告》

2月6日(土)

幼稚園もちつきと一緒に参加する!

教会学校の子どもたちは、みんなで交代しながら自分たちでうすつきあげ、自分たちで丸めて、次の日のお雑煮用のもちを準備しました。

2月7日(日)

お雑煮を食べよう

2月14日(日)

幼稚園のゲームで遊ぶ

2月21日(日)

幼稚園と合同・つみきで遊ぶ

2月28日(日)

ふるしき大会

“にしきた特製ふるしき”を使って風船を包み競争をしたり、いろんな巻き方を試したりしました。最後におおきな風呂敷包みから出てきたのはポップコーン! みんなで両手いっぱいポップコーンをもらってほおばりました。

《3月の活動予定》

3月7日(日)

おやきを食べよう

3月14日(日)

吹き矢大会!

3月21日(日)

教会学校入学式・ガーデンパーティ

3月22日(月)

教会と子どもセミナー2010

3月28日(日)

新入学生と歌を歌おう!

まいのなんでも案内

「運命って信じる？」数年前にそんな携帯のCMがあった気もしますが、まゝ言い古された質問ですよ。ちなみにわたくしは運命を信じる云々より、縁は存在すると確信しております。そして西宮共同幼稚園とは、少なからずご縁があると感じております。との思いを新たにした今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。最近たまたま知り合った静岡出身東京在住の方が、わたくしが西宮出身と言っただけで、西宮共同教会に行ったことがあるという話をされたのは、今年度一番の驚きだったかもしれません。いやーびっくり。何故銀座のお茶室で津門川の話をしているんだ私は、と何度自問したことか。

さて「3月ってこんなに寒かったっけ？」という毎年言ってるセリフを今年も繰り返しながら、学生の友人たちの春休みに付き合っ、変わらず多忙な日々を過ごしております。一年前はまだ春休みだったんだなあ・・・と思うと少しおセンチにもなりますが、そして関西の空気が懐かしくもなりますが、充実してるんだと思います。気になることと言えば、テレビない生活5年目に加えて、インターネットない生活3ヶ月目に突入してしまったことで、まゝ携帯

14 電話があるから情報収集はできるん

ですけれども、何故かワンセグが見られない我が家。東京都23区内なのに！なんで！！テレビっ子の方々から珍種を見るような目で見られ続けるのはもう全く気にならないのですが、NHK教育テレビとフィギュアスケート（男子シングル）と水泳は見たいんです。なので夏までにそんな生活に終止符を打つかも知れません。そう、NHK教育TVは高校生だった私の心のよりどころだったんです。朝の「にほんごであそぼ」「ピタゴラスイッチミニ」の流れが（逆だったかも？）ないと一日が始められなくて！まゝそれ見てから学校行くと本当に遅刻ギリギリだったのですが、それでも必ず毎朝見ておりました。というわけで紹介！ブームは去ったのかもしれないけれど、その分定着してますよねー？今は全然チェックしていないけれど、まだ「アルゴリズム体操」とかやってるよねー？

「にほんごであそぼ」は、初代の子役4人が可愛くて、コニちゃん以外にもさんようさんとか花禄さんとか、私好みの番組だ！と今でも思います。元は野村萬斎が出てるのが目当てだったんですけどね、気づいたら「アメモマケズ」暗唱していましたからね。「寿限無」は前から覚えていたんですけれども。あと、おおたか静流

さんのよく分からない歌と踊り！衣装と相まってとても独特な世界になっていて大好きです。にほんごであそぶ、というタイトルどおり、口ずさんで快い言葉を使っているから、ついつい口に出てしまう。英語で授業だなんだと騒がれているけれど、自国語をきちんと喋れるようになる（少なくとも知る）のが先決だろうという私の考えに沿う番組なのです。別にいきなり難しいこと言えっつーんじゃなくても、とりあえず興味を持つきっかけにはなるだろうと。かく言う私も褒められたものではないですが、TPO をわきまえた言葉遣いに苦労させられています。

「ピタゴラスイッチ ミニ」は、「ミニ」の名のとおり、別の時間帯にやっている元番組の縮小版。「バザールでござーる」とか「だんご三兄弟」とか（この辺ジェネレーションギャップを感じちゃったりするのかしら・・・）を作ってらっしゃった、佐藤雅彦さんとうちのますみさんというお二人が制作している番組。色んなパートに分かれた番組の詰め合わせです。ごたくは色々あるのだろうけど、文系への理系的アプローチ、というのが私の認識。こちらも耳につく歌がたくさん。踊りたくなる踊り（体操？）もたくさん。ああまた見たくなくなってきた！オープニングの映像は集めて「ピタゴラ装置DVD」というものが発売されているのですが、それを言

うなら「にほんごであそぶ」のCDも色々出ているのですが、それらは一切買わずに記憶のみでレビューしてみました。相変わらずですみません。ピタゴラスイッチの佐藤さんは、絵本にも関わってらっしゃるので見てみるとおもしろいかもね。とりあえず朝起きるためにTV 買うのもアリかもしれないと思い始めた舞でした。また次回！

つとがわ 編集後記

15年前、兵庫県南部大地震の後、たまに聖書を読む時の一つ一つの言葉が生きた言葉として聞こえてきました。“おや！”とあっていて、しばらくして“ああ、これって、今の自分 目の前で町が壊れ、人の命が失われていく事実を生きている自分 が、聖書の言葉の事実に近い”という事かも知れないと気付きました。多分、その感覚は、古代とは言え、聖書の言葉がある差し迫った事実に迫られるようにして書かれていて、そのことで呼び覚まされたのかもかもしれません。良きにつけ、悪しきにつけ、この感覚は、そんなに間違っていない、ように思えます。

(K)

先日、幼稚園の大きなソメイヨシノの細い枝が一本折れてぶら下がっていました。他の枝のつぼみはどんどん膨らみ、今にも開きそうなのに、その枝のつぼみだけ固く閉じたままでした。なんとかつぼみが開くといいなと祈りつつ木から取って花瓶にさしておきました。三日たっても四日たっても何の変化もなく、でも大丈夫！信じていたら、一週間たったある日、中から緑色のガクが見えていたのです。ちゃんと生きてた！力強いその生命力に思わず、見てーっ！！と子ども達にも大騒ぎです。大きなソメイヨシノの木はいつか花が咲き初めました。部屋のつぼみもそのうちピンク色の花に～懸命に生きるその姿をしっかりと見守りたいと思っています。

(I)

2月最初に母が左ひざを骨折。1ヶ月のギブス生活でした。休みの日、姉は美容院のように母を洗面台に座らせて頭を洗い、私は洗い物に洗濯... まだまだ母がいないと困ることだらけで、改めて母に感謝の1ヶ月でした。

(Y)

近畿地方に春一番が吹いたという知らせが入りました。

子ども達と畑に行ってチンゲンサイの菜の花に驚いたりマサキの新しい柔らかい葉が生まれてきていたことに気づいたり、大好きな沈丁花の香りに嬉しくなったり春をいっぱい感じています。買い物に行くと春色の服が並んでいてウキウキしてしまいました。春は新しいスタートを切る季節でもあり、この1年間一緒に過ごした54人の子ども達が卒園していきます。春は嬉しいけれど

ちょっぴり寂しくもなる季節だなあと感じています。

(N)

園庭の桜が見る間に膨らみ始め、16日とうとう開花。えーっ早すぎる！満開はいつだろう、少しでも多くの人に見てほしいのに。ところで寒い冬だった。いやわたしが年をとって寒さをより多く感じたのかも。布団をホットカーペットの上に敷いて布団ごと温めて寝るのが大好き。ところが横に寝る人はそれだと暑がり、しかも汗をかくとか何とかうるさいことこのうえない。でも寒がりでも冷え性でもあり毎年こまめに湯たんぽを使用している。いつもはカーペットの電源を切ってから布団に入ってきていたが、今年は何とわたしの湯たんぽも準備してくれた。それでこの冬は布団に入る時は布団全体は冷たくても湯たんぽが足元に準備されているので寒さをしのいで眠りました。毎夜帰ってくるとまずお湯を沸かしての湯たんぽの準備には頭が下がった。加えてカーペットの電気使用がなかったので電気代も超安く一石二鳥。寒さも山を越えてぼつぼつ春へ。今度は暑さと向き合う日がまたやってくる。夏はわたしがあれこれ文句を言う番。蚊にかまれる、やれ暑いとにぎやかな横に寝る人に対して、わたしは蚊取り線香は鼻に悪く、扇風機はあまり好きでない。

(J)